

【受験生へ】小論文入試への取り組み⑥

接続語 ～ 小論文で大活躍 ～

国語科主任 八木

接続語というと、現代文の接続語補充の問題をまず思い浮かべる人が多いと思います。しかし、小論文こそ、接続語が大活躍するのだということを説明します。

接続語は、信号機や道路標識のようなものです。なければ、道路は大渋滞を起こしてしまいうでしょう。文章であれば、読みにくく、流れの悪い、理解しづらい内容になってしまいます。まず、それぞれの接続語の役割をよく理解したうえで、使用する必要があります。

だから	因果接続	→ 前後が因果（原因→結果）関係になっています。
たとえば	例示	→ これから具体例が書かれるとわかります。
つまり	要約換言	→ 前述の内容を端的にまとめます。
しかし	逆接・対比	→ 前述の内容と反対・対照的内容になります。
ところで	転換	→ 前述の内容と変わった内容となります。

このように、したがって、ようするに → 上位の階層への移動（帰納法 具体→抽象）
たとえば、なぜなら、 → 下位の階層への移動（演繹法 抽象 → 具体）

以上、代表的な接続語の働きを説明しましたが、このように、接続語は、論理的文章を書くには、是非とも上手に活用する必要があります。

接続語を使用するという事は、もちろん、「書き手」にとって大事なことは言うまでもありませんが、むしろ、「読み手」である採点者への配慮という側面こそ留意されるべきでしょう。

前者（「書き手」）にとって、接続語は通過点につけるマーカー（目印）・インデックス（目録）であり、複雑な内容を整理し、あらかじめ立てた構成に沿って確実に文章を展開させたいときに力を発揮します。

後者（「読み手」）にとってそれは、前後の文の接続関係を示し、どんな内容が書かれているかを事前に予測することを可能とします。つまり、読み手のスムーズな内容理解を可能にします。結果的に答案の採点者に配慮したわかりやすい小論文となるのです。